

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 26 年後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	近藤 泰介	会員番号	0033085
申請者の所属・職名	慶應義塾大学 医学部 微生物学・免疫学教室 大学院生(博士課程)		
出席会議名	KEYSTONE SYMPOSIA T cells: Regulation and Effector Function (D3)		
発表論文タイトル	Generation of mouse CD4+ stem cell memory T cells by Wnt signaling and Notch signaling		

実施結果:

私はアメリカ合衆国ユタ州 Snowbird Resort にて開催された KEYSTONE SYMPOSIA T cells: Regulation and Effector Function (D3) (2015 年 3 月 29 日～4 月 3 日)に参加致しました。数ある KEYSTONE SYMPOSIA の中でも本学会は T 細胞に関する演題を中心に構成されていました。参加されていた研究者の方々はそれほど多くはありませんでしたが、トピックが T 細胞に絞られていたため、極めて専門性の高い議論が活発に行われ、T 細胞研究の最先端の知見に触れることができました。

本学会にて“Generation of mouse CD4+ stem cell memory T cells by Wnt signaling and Notch signaling”という演題名にてポスター発表をさせて頂きました。ステムセルメモリー T 細胞は一般的に良く知られているエフェクターメモリー T 細胞やセントラルメモリー T 細胞とは異なり、これら他のメモリー T 細胞サブセットを供給する幹細胞様の特徴を持つ新規のメモリー T 細胞として近年提唱されています。本研究では in vitro の実験系を用いて Notch シグナルがステムセルメモリー T 細胞を誘導できることを発表致しました。ポスター発表は 2 時間以上行うことができ、海外の研究者とじっくりディスカッションを行いました。多くの方々に私の発表に興味を持って頂き、今まで気付かなかった点へのご指摘や新しいアイデアを頂き、大変有意義な発表を行うことが出来ました。また免疫記憶に限らず、T 細胞の胸腺での成熟からヘルパー T 細胞の分化、各疾患での T 細胞の関連等、さまざまな T 細胞研究について見識を深めることが出来ました。

最後に、Tadimitsu Kishimoto International Travel Award に賜り、誠にありがとうございました。補助を受けることができ、本学会へ参加および研究成果の発表を行うことが出来ました。今回の経験を生かして、今後ますます研究に精進していこうと決意致しました。また、このような機会を与えて頂きました岸本忠三先生および選考委員の先生方に厚く御礼申し上げます。